

声

業界の

● 山梨県広告美術業協同組合

理事長 渡辺 和之氏

業界の現況は？

当業界は、企業等のPR活動のための看板等の作成を行っています。

日本では、江戸時代から職人が手作業で看板等を作成し、それぞれが作る書体（フォント）をその企業の売りとしてきました。しかし、現代ではパソコン等の普及により、様々な書体が簡単に作成できるようになり、そのため、他社との差別化が難しくなってきました。現在は、顧客に対し、デザインの工夫等の付加価値をどう創造していくかが重要となってきています。

また、近年の景気後退は、当業界に大きな影響を与えています。企業が経費削減を考えたとき、まず候補とされるのは広告・看板・チラシ等の広告宣伝関係となっているからです。これにより仕事量は減少し、同業者間での価格競争も起きています。その他、近年の原油高騰に伴い、看板資材等の値上げも、当業界にとっては大きな痛手となっています。

今後の展開は？

皆さんがご承知のように屋外広告物は、経済活動や日常の住民生活には必要不可欠な物です。しかし、一方で景観の重要な要素でもあります。

この両者のバランスを取ることは非常に難しい訳ですが、これに対応出来る新しいルール作りの構築が大切だと考えています。

そこで当組合では、4年前から県内における屋外広告物のあり方について調査、研究活動を進めてきました。

この活動が評価され、一昨年度、国土交通省の「住まい・まちづくり担い手事業」の支援対象団体として選定され、昨年度には行政の方々にもご参加いただき「屋外広告物研究会」を立ち上げました。今年度は事業の最終年度となりますが、さらに踏み込んだ活動を展開していきたい、山梨県の将来にふさわしいルールの提案と組合の地位向上に努めていきたいと思っています。



屋外広告物「ハンドブック」